

朝ドラ「ブギウギ」心うきうき

笠置シヅ子モデル NHKで来秋から

2023年度後期に放送されるNHKの朝の連続テレビ小説が「ブギウギ」に決まった。NHK大阪放送局が24日、発表した。

主人公のモデルは、笠置シヅ子(1914～85)。「ブギの女王」として知られる戦後の大スターで、その人生を再構成したオリジナル作品となる。

ヒロインの花田鈴子は、香川生まれの大阪育ち。下町にある小さな銭湯の看板娘は、道頓堀にできた歌劇団へ。やがて始まる戦争や幾多の苦難を乗り越え、スターへと駆け上がる。鈴子役はオーディションで決めるという。

脚本は、足立紳さん。NHKドラマ「六畳間のピアノマン」「拾われた男」などを手がけた。足立さんは「主人公の生きる姿を見ながら、いつの間にか『生きる活力』のようなものが少しでもみなぎってくるような作品になればうれしい」と意気込む。

音楽は、NHK大河ドラマ「真田丸」などを手がけた服部隆之さん。笠置の代表曲「東京ブギウギ」を作曲した服部長一の孫だ。

服部さんは、「朝から視聴者の皆様にワクワク、ドキドキ、ブギウギを感じていただくと、微力ながら頑張らせていただきます」とコメントした。

撮影は来春スタートし、来秋から放送を開始する予定。



敗戦直後の暗さ 吹き飛ばすリズム

主人公のモデルとなる笠置シヅ子は、どんな人物だったのだろうか。

1985年3月、70歳で卵巣がんを亡くなった際、朝日新聞に掲載された言談記事には「激しいブギのリズムで歌って踊る笠置さんの『東京ブギウギ』や『買物ブギ』は、終戦直後の焼け跡、ヤミ市に流れ、すきつ腹の庶民に強烈な印象を与えた」と書かれている。

1914(大正3)年、香川県生まれ。幼い時から日本舞踊を習い、小学校卒業と同時にOSK日本歌劇団の前身、大阪松竹楽劇部へ。踊りと歌でスターになった。

38(昭和13)年に東京へ移り、東西の松竹歌劇から団員が合流して帝国劇場で旗揚げした松竹楽劇団に参加、ジャズ歌手として売り出した。

そのころから、笠置のリズム感の良さに着目していたのが服部長一だ。

服部は47(昭和22)年、「東京ブギウギ」を作曲。「東京ブギウギ リズムウキウキ 心ズキズキ ワクワク」と始まる軽やかな歌声は、敗戦直



服部隆之さん ©木村辰郎

「ブギの女王」として名を馳せた笠置シヅ子

後の暗い世相を吹き飛ばす勢いでまたに広がった。

大声を張り上げて歌い、舞合を駆け回るスタイルは斬新で、進駐軍の米兵も「これが敗戦国民か」とその明るさに驚いたという。

その後も、数々の「ブギ」を世に送ったが、なかでも「買物ブギ」はレコード45万枚を売り上げ「わてほんまに よう言わんわ」は流行語になった。

美空ひばりが、歌謡界にデビューしたのも笠置の物まねがきっかけだった。

ブギが下火になると、いち早く歌手活動をやめた。その後は気さくな笑顔をいかし、映画やテレビで役者として息の長い活躍をした。

当時の記事には「この間、ナツメロ・ブームで、テレビ関係者らが何度もブギを歌わせようと試みたが、『この年で……』と断り続け、再び歌うことはなかった」とある。

服部長一は、笠置の訃報を受け、朝日新聞の取材にこのように語った。

「彼女のように歌って激しく動けるというタイプの歌手はそれまで日本にはいなかった。私も彼女がいなかったらブギを作曲しなかったら」

「確かに美声の持ち主はいえませんが、リズム感は抜群だった。あのころは、みんな腹がくっついて、音楽を耳で聴くというより体で感じる時代だったから、彼女の歌がヒットしたのだろう」

「いずれにせよ、彼女のような歌手はもう現れないだろう」(照井琢見)